

# 物事の本質を知ることが 格差をなくす大きな要因となる

FCTメディア・リテラシー研究所  
(横浜市)

ナビゲーター  
FCTメディア・リテラシー研究所  
西村 寿子

メディアが伝えることを  
読み解く力を養う

「メディア・リテラシー」とは、「メディアを批判的に分析し評価する能力」「メディアに能動的にアクセスする能力」「多様な形態で主体的にコミュニケーションを作りだす能力」であると考えられている。現代のような高度情報化社会では、インターネットや携帯電話といった新しいメディアが台頭してきていることもあり、メディアからの情報が私たちの日常生活そのものである今日、市民がメディア・リテラシーを獲得する重要性は、ますます高まっていると言えよう。

こうしたメディア・リテラシーに関心を持ち、いち早く一九七七年に「FCTメディア・リテラシー研究所」の前身である「FCT市民のメディア・フォーラム」を立ち上げたのが、今年七月に逝去された鈴木みどり



『メディア・リテラシーをどう学ぶの?』の講座は、FCTメディア・リテラシー研究所のインターネットサイトを使って学ぶ



パソコンに不慣れな人であっても、お互いに教えあう

ワークショップでは、参加者は数人ずつのグループに分かれて話し合いや発表を行う



2日間、それぞれ異なったメンバーでグループを作るようにした



自分の手で初めてパソコンを動かす人もいるが、インターネットがメディアとして大きな力を持つようになってきていることは誰もが認めている

教授(立命館大学)だった。

「鈴木先生を中心に、各地でのメディア・リテラシーワークショップやシンポジウムの開催、メディア分析、調査報告書の刊行などを行い、中でも、すべての市民、特に子ども、女性、高齢者、障がい者、民族的・人種的少数者などのマイノリティ市民の視座からメディアを読み解き、メディア社会を生きる力の獲得をめざすメディア・リテラシーの研究と実践を進めてきました」と研究所員の西村寿子さんは説明する。

同研究所は、今夏、高槻市立富田青少年交流センターで「メディア・リテラシー 夏季連続講座」の企画・運営を行ったが、全国各所でも同じようにメディア・リテラシーへの関心を高める活動を進めている。

同講座は、二日に分けて計八時間(四講座)にわたって、「『メディア・リテラシー』をどう学ぶの?」「ニューズの報道はどの構成されているの?」「CMのターゲットって誰?」「広告がつくりだす文化って何?」という各テーマに沿って、「メディア・リテラシー」について考えていこうとするもの。参加者の年齢も大学生から高齢者までと幅広いこともあり、それぞれの経験や考えを元にして意見をぶつけ合い、メディアがどのように構成されているかを多面的に「読み解く」ための方法を学んだ。

「多様な視点からメディアを読み解き、互いに対話し学びあうこと」によって、メディア・リテラシーの獲得を目指します」と西村さんが言うように、生活者のメディア・リテラシーの能力を高めるとともに、社会不安をむやみに煽ることがないような、メディアと生活者との賢い関係を構築していくためにも、同研究所の今後のさらなる活動に期待が寄せられている。

(文責・CEL編集室)



高槻の講座で講師を務めた研究所のメンバーの、左から、矢竹秀行さん、西村寿子さん、森本洋介さん



HPでは研究所の理念や活動を詳しく伝えていく



講義には鈴木みどり教授が編集者として作成した「新版Study Guide メディア・リテラシー【入門編】」(リベルタ出版)が、教材として使われている

NPO法人 FCTメディア・リテラシー 研究所

【連絡先】

〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1 横浜ワールドポーターズ6階NPOスクエア内  
E-mail fct-mlri@mlpj.org FAX 0466-81-8307  
URL <http://www.mlpj.org/>